

2024年（令和六年） 9月6日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

当週(8月29日～9月4日)の国際石油市場は、29日は、リビアの一部油田の生産停止、イラクの減産の報道、米国利上げ観測で上昇で始まったが、30日以降は、米中経済の先行き懸念、OPECプラスの減産緩和報道、リビアの輸出再開の動き等で、大幅に軟化した。

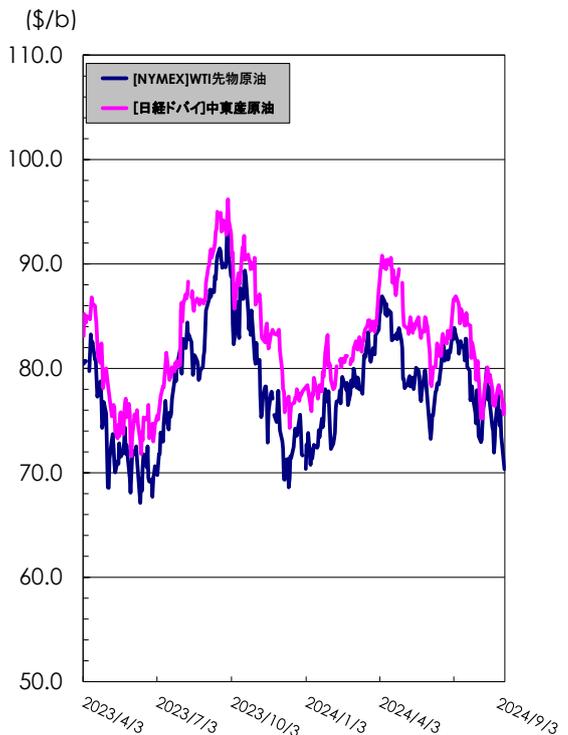
NYのWTI原油先物市場は、29日、3営業日ぶり反発の75.91ドルで始まったが、30日からは3連休を挟み3営業日続落、4日には70ドル台を割り、69.20ドルで終わった。

また、中東産バイ原油/東京市場(10月渡し)も、前週(8月22日～28日)76.40～78.40ドルの範囲で推移したが、当週は、8月29日77.60ドル、30日77.80ドル、9月2日75.60ドル、3日76.60ドル、4日73.50ドル。

対ドル為替レート(TTM)は前週(8月22日～28日)143.56～146.27円の範囲で推移したが、当週は、8月29日144.53円、30日144.80円、9月2日146.24円、3日147.16円、4日145.40円となった。

そのような中で、9月2日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値下がり、軽油も同0.1円の値下がり、灯油は同1円の値下がり(18リットルベース)、ガソリンの全国平均価格は174.4円となった。9月5日～11日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は16.4円(補助金がない場合の次週予想価格191.2円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は6.2円)となった。

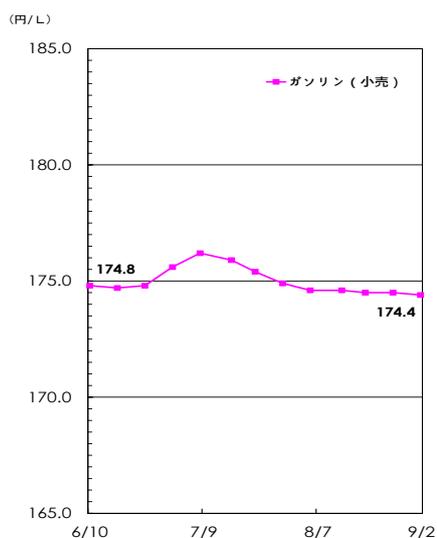
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/25～8/31	2,512 ▼-83	▼-
	トッパー稼働率 (%)	"	72.6 ▼-2.4	▼-
	原油在庫量 (千kl)	8/31	10,917 ▼-82	▼-
価格	中東産原油(日経バイ) (\$/bbl)	9/2	75.60 ▼-2.60	▼-14.1
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	9/3	70.34 ▼-7.08	▼-16.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月上旬	87.48 ▼-0.11	▲5.32
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	85,875 ▼-1,997	▲12,306
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	156.07 ▲3.41	▼-13.71
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/2	147.24 ▼-2.68	▲0.03



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	8/25 ~ 8/31	811 ▲ 19	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	762 ▲ 28	▼ -
	輸出	"	40 ▲ 40	▼ -
	在庫	8/31	1,415 ▲ 10	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 8/27 ~ 9/2	81.0 ➡ 0.0	▼ -8.0
		(TOCOM/中部) 9/2	80.0 ➡ 0.0	▼ -11.5
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 9/2	174.4 ▼ -0.1	▼ -12.1

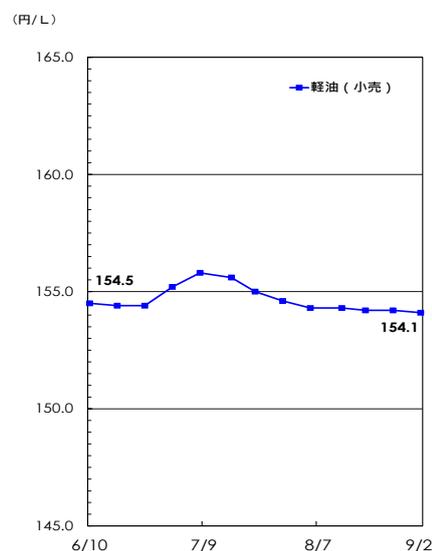
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

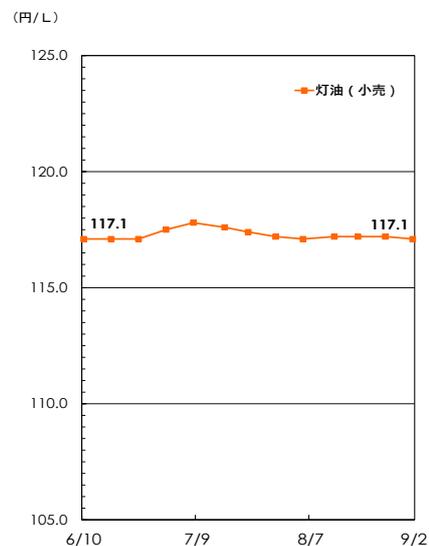
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	8/25 ~ 8/31	571 ▼ -101	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	468 ▼ -67	▼ -
	輸出	"	33 ▼ -83	▼ -
	在庫	8/31	1,549 ▲ 71	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 8/27 ~ 9/2	80.8 ▲ 0.1	▼ -13.3
		(TOCOM/中部) 9/2	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 9/2	154.1 ▼ -0.1	▼ -11.7

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	8/25 ~ 8/31	218 ▲ 60	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	8 ▼ -43	▼ -
	輸出	"	48 ▲ 33	▼ -
	在庫	8/31	2,060 ▲ 162	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 8/27 ~ 9/2	80.0 ➡ 0.0	▼ -7.6
		(TOCOM/中部) 9/2	79.0 ➡ 0.0	▼ -11.2
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 9/2	117.1 ▼ -0.1	▼ -7.8



■ 関連情報

1 海外/原油 (WTI原油先物市場)

前週(8/22~8/28)のNYMEX・WTI先物市場は73.01~77.42ドルの範囲で推移した。

当週、8月29日は、内戦中のリビアで約70万BDの生産停止があり、また、イラクが過去の合意違反増産相当分の減産を行うとの観測、米国利下げ実施の確実視もあり、3営業日ぶりに反発した。10月物終値は前日比1.39ドル高の75.91ドル。

週末30日は、OPECプラスが9月末までを期限としている自主追加減産(220万BD)の一部緩和(増産)を検討中との報道で反落した。また、ドル高による原油先物の割高感も値下がり要因となった。10月物終値は同2.36ドル安の73.55ドル。

9月2日は、レイバーデーの休日で休場。

連休明けの3日は、中国統計局は8月の製造業景況指数(PMI)を49.1と前月比0.3ポイント悪化、4か月連続で節目の50を下回り、景気の先行き懸念が拡大、また、リビアでも分裂中の東西両政府の国連仲裁による協議の進展が伝えら

れ、出荷再開の期待から、大幅統落し、昨年12月中旬以来8か月半ぶりの低水準となった。10月物終値は同3.21ドル安の70.34ドル。

4日は、米国雇用統計の非農業部門求人数が市場予測を下回ったことなど、景気先行き懸念が高まったこと、内戦で原油生産の一部停止で供給が滞っていたリビアでタンカー出荷再開の動きがあり、緊張が緩和したことで、3営業日統落し、70ドル台を割り、約1年2か月ぶりの安値を記録した。10月物終値は、同1.14ドル安の69.20ドル。

2 海外/米国石油市場

8月30日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、レイバーデーの休日につき、1日遅れの9月5日発表の予定。

EIAによると9月2日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比2.4セント安の1ガロン3.289ドル(127.8円/ℓ)と5週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比2.6セント安の1ガロン3.625ドル(140.8円/ℓ)と8週連続の値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、8月30日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比横ばいの483基と2週連続の横ばいとなった。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年8月25日~8月31日に休止したトッパー能力は48.4万バレル/日で、前週に対して3.9万バレル/日増加した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は251.2万klと、前週に比べ8.3万kl減少。前年に対しては49.2万klの減少。トッパー稼働率は72.6%と前週に対して2.4ポイントの減少、前年に対しては8.4ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、灯油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/2.4%増、ジェット/72.6%増、灯油/38.3%増、軽油/15.1%減、A重油/10.8%減、C重油/14.3%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比横ばい)。軽油の輸出は3.3万kl(前週比8.3万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてガソリン、ジェットが増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェットが増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は76.2万kl(対前週3.9%増)と2週振りに増加した。ジェット10.3万kl(対前週1.3%増)、灯油0.8万kl(対前週84.2%減)、軽油46.8万kl(対前週12.5%減)、A重油13.0万kl(対前週18.3%減)、C

重油11.4万kl(対前週0.4%減)。

(単位:千L)

	今週 (8/25 ~ 8/31)	前週 (8/18 ~ 8/24)	前週比
ガソリン	762	734	▲ 28 (4%)
ジェット燃料	103	101	▲ 2 (2%)
灯油	8	51	▼ -43 (-84%)
軽油	468	535	▼ -67 (-13%)
A重油	130	159	▼ -29 (-18%)
C重油	114	115	▼ -1 (-1%)
合計	1,585	1,695	▼ -110 (-6%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

4 国内/製品在庫量

8月31日時点の在庫は、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては軽油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは141.5万kl、前週差1.0万kl増。前年に対しては0.8万kl少ない。

灯油は206.0万kl、前週差16.2万kl増。前年に対しては29.4万kl少ない。

軽油は154.9万kl、前週差7.1万kl増。前年に対しては10.7万kl多い。

A重油は68.9万kl、前週差0.8万kl減。前年に対しては6.5万kl少ない。

C重油は173.7万kl、前週差2.3万kl増。前年に対しては41.2万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (8/31)	前週 (8/24)	前週比
ガソリン	1,415	1,405	▲ 10 (1%)
ジェット燃料	715	708	▲ 7 (1%)
灯油	2,060	1,898	▲ 162 (9%)
軽油	1,549	1,478	▲ 71 (5%)
A重油	689	697	▼ -8 (-1%)
C重油	1,737	1,714	▲ 23 (1%)
合計	8,165	7,900	▲ 265 (3.4%)

5 国内/元売会社製品卸価格

8月27日～9月2日のドル建て中東原油価格は値上がったが、為替レートは円高で、円建て輸入原油価格は値上がりし、元売会社の卸建値は値上げたものと見られる。加えて、補助金が減額されたことから、9/5～9/11の実質卸価格は値上がりとなる模様。

6 国内/製品小売価格

9月2日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の174.4円、軽油も同0.1円安の154.1円、灯油も18%ベースで同1円安の2,108円(1%ベースでも同0.1円安の117.1円)。ガソリンは2週ぶりの値下がり、軽油も2週ぶりの値下がり、灯油は4週ぶりの値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がり15都道府県、横ばいは5県、値下がり27府県だった。全国最安値は愛知県の167.3円、その次は岩手県の167.4円であった。他方、最高値は長野県の182.6円。最も値上がりしたのは北海道(同1.3円高)、最も値下がりしたのは香川県(同2.3円安)だった。

次回調査時(9/9)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (9/2)	前週 (8/26)	前週比	直近高値
レギュラー	174.4	174.5	▼ -0.1	23/9/4 186.5
灯油	117.1	117.2	▼ -0.1	08/8/11 132.1
軽油	154.1	154.2	▼ -0.1	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2024第22号) の公表は、9/13 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。